

## 報 告

# 京都文教大学地域連携学生プロジェクト 2024 年度 活動報告

## 1. 京都文教大学 地域連携学生プロジェクト

京都文教大学では、地域を対象とする学生の自主的活動の中から、地域特性を活かしつつ、成果が期待できる取組みを「地域連携学生プロジェクト」として選定し、支援、助成している（2007 年度～2024 年度採択プロジェクト数：延べ 112 団体）。地域に根ざし、地域に学び、地域への貢献を目指す本学の教育研究目標を達成するために、まちづくりや地域おこしなどへの学部、学科を超えた主体的な取組や、実習や演習などの延長にあり、大学での学びを発展的に展開するような取組、地域の住民・行政機関・地元企業・団体等との連携、協働で展開する取組を「地域連携学生プロジェクト」として採択し、学びと地域貢献を両立させる場として本活動を推進している。

## 2. 募集概要

2024 年度は次の通り公募をし、学生団体（5 団体）から申請された。

申請期間：4 月 11 日（木）～4 月 30 日（火）

助成期間：約 1 年間（採択日～2025 年 3 月 31 日）

助成金額：上限 25 万円までとする。

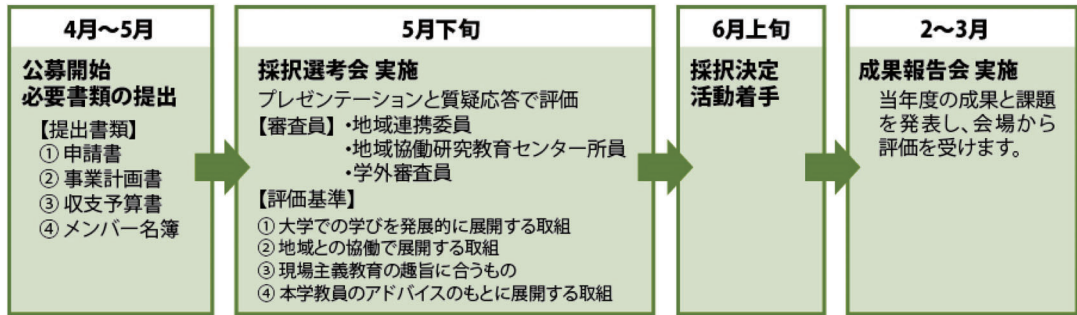
申請条件：

- ・地域と協働および連携を図る事ができるプロジェクトであること。
- ・本学学生（学部・学科は不問）3 名以上で構成されるチームであること。
- ・地域パートナーまたは連携先が明確であること。
- ・適正な経理処理・事業報告ができること。
- ・学生が依頼し趣旨を理解してサポートする本学教員（アドバイザー教員）がチームに含まれること。

## 3. 採択までの流れと年間スケジュール

次の通り、年度当初に学内から申請を募り、その後採択選考会を実施し採択の可否を行う。審査は、京都文教大学地域協働研究教育センター員と地域連携委員の学内審査員と、行政・企業・高等学校等から成る学外審査員が行う。

採択された学生団体に年度末に開催する成果報告会の参加と事業報告書の提出を義務づけ、活動のフィードバックを行う。



#### 4. 2024 年度の採択団体

以下の5団体が「地域連携学生プロジェクト 2024」に採択され、活動に取り組んだ。

※ 【 】内に活動開始年度 < >内にアドバイザー教員名を記載

1. 宇治☆茶レンジャー【2010 年度～】／森 正美（総合社会学部実践社会学科 教授）>
2. KASANE0【2018 年度～】<黒宮 一太（総合社会学部実践社会学科 准教授）>
3. KminK【2022 年度～】<黒宮 一太（総合社会学部実践社会学科 准教授）>
4. 商店街活性化隊 しあわせ工房 CanVas【2014 年度～】<片山 明久（総合社会学部総合社会学科 教授）>
5. lemon tree【2024 年度～】<平尾 和之（臨床心理学部臨床心理学科 教授）>

**京都文教大学地域連携学生プロジェクト 2024  
事業実績書**

プロジェクト名	宇治☆茶レンジャー
事業実施地域	宇治市、久御山町、京都市
連 携 先	地域パートナー：通圓茶屋 通円祐介様、福文製茶場 福井景一様 主な連携団体等：京都府茶業会議所、京都府茶協同組合など
活動の種類	(該当するものを○で囲んでください。複数選択可) 1 環境保全活動      2 子育て支援活動      3 共助型福祉活動      4 地域の安心・安全 5 地域美化活動      ⑥地域産業おこし      ⑦地域商業の活性化      8 農村・都市交流活動 9 地域スポーツ振興      ⑩地域文化活動      ⑪地域行催事      12 その他 (                      )
主な活動	( 10 ) 番      選択された番号のうち、もっとも重点においている活動を1つ選んでください。
プロジェクトの目的・目標 (目的を達成するための指標・数値等)	プロジェクトの目的は、近年、急須でお茶を淹れる機会が減少する一方で、宇治茶の文化的価値や生産景観の評価が高まっています。宇治市立小学校での「宇治学」による地域学習の広がりや海外での日本茶ブームにより、宇治茶を取り巻く環境は変化しています。本プロジェクトは、宇治茶のおいしさや魅力を幅広い世代に発信し、関心を高めることで、宇治やお茶屋さんへの訪問を促進することを目的としています。 目的達成のために、昨年と同様の規模で中宇治にてスタンプラリーイベントを開催し、約1000人の参加者を目指します。また、美味しい宇治茶の淹れ方体験やみんなでお茶当て☆茶レンジ(茶香服)などのワークショップを年間15回程度開催し、急須で淹れるお茶に親しみを感じてもらう活動を行います。
プロジェクトの目的・目標の達成具合 (具体的な数値を記載する)	今年度の活動では、美味しい宇治茶の淹れ方体験が16回、みんなでお茶当て☆茶レンジを5回、合計で21回実施することができた。宇治茶スタンプラリーの参加者は約1100人だった。ここからプロジェクトの目標達成具合としては、参加者の反応などから見て達成できた部分が大いなのではないかと考える。
上記の目標値がプロジェクトの目的にどのような影響を与えたと考ええるか	今年度に実施した計21回のワークショップの内訳は、美味しい宇治茶の淹れ方体験が16回、お茶当て☆茶レンジが5回でした。また、ワークショップはショッピングセンター、福祉施設、大学イベント等、様々な場所で実施することができ、幅広い世代に発信し、関心を高めるという目的に繋がったと考えられます。 今年度の宇治茶スタンプラリーの参加者は約1100人であった。スタンプやクイズを通して、宇治の街を歩いてもらうイベントを企画した。目標人数は約1000人としていたため、期間中にお茶淹れ体験のワークショップ茶香服も同時開催し、参加者は目標値を上回ることが出来た。アンケートの中には「スタンプラリーを通じて普段行かないお店なども入ることができて楽しかったです。」「すごく楽しかった。宇治はいいところだなと思った。」という反応も見られ、参加者には楽しんでいただけたのではないかと考える。
具体的な事業内容	(※事業の趣旨、実施日時、場所、参加者の状況、事業内容等) <b>【今年度の実施イベント】</b> 4月：●縁庵マルシェ(株式会社 宇治吉田運送にて) ●京都学生祭り(イズミヤ六地蔵店にて) 5月：●黄檗エンジョイフェスタ(萬福寺にて) 6月：●宇治市高齢者アカデミー生向け特別形式で実施(京都文教大学にて) ●オープンキャンパス(京都文教大学にて) 7月：○福祉の園での余暇企画内(志津川福祉の園にて) ●オープンキャンパス1回(京都文教大学にて)

<p>具体的な 事業内容</p>	<p>8 月：○親子向け茶香服イベント（京都文教大学にて）  ●オープンキャンパス4回（京都文教大学にて）  茶ムリエ講座受講（京都文教大学にて）  企画構成に関するWS（京都文教大学にて）</p> <p>10 月：●くみやまスマイルフェスティバル（久御山中央公園にて）  ●まちにわワークショップ（兎道ふれあいセンターにて）  ●円山マルシェ（円山公園にて）</p> <p>11 月：○ともいきフェスティバル（京都文教大学にて）</p> <p>12 月：●FUN×FAN×FES（宇治文化センターにて）  ●ユースシンポジウム2024 ちいさな若者博（京都市下京青少年活動センターにて）  ●うーちゃフェスタ（宇治市産業会館にて）</p> <p>1 月：●高齢者アカデミー生向け特別形式で実施（京都文教大学にて）</p> <p>2 月： 宇治茶スタンプラリー実施（宇治橋周辺にて）  ○宇治茶スタンプラリーイベント内（アーバンデザインセンター宇治にて）  ●宇治茶スタンプラリーイベント内（宇治橋集会所にて）</p> <p>3 月：○西京ひろば（西京区役所にて）  ●・・・美味しい宇治茶の淹れ方体験  ○・・・みんなでお茶当て☆茶レンジ</p> <p><b>【宇治茶スタンプラリー】</b>  宇治にまつわる歴史や文化のクイズに答えながら、宇治茶に関係する場所を巡ることで宇治茶を学んでもらうイベントとして宇治茶スタンプラリーを実施した。宇治☆茶近年継続しているスマートフォンとQRコードを利用したデジタルスタンプラリーの形式と昨年と同様にクイズも取り入れて2月8日から2月24日の約3週間実施した。さらに、イベントの期間中に美味しい宇治茶の淹れ方ワークショップやみんなでお茶当て☆茶レンジ、本学の高齢者アカデミー生向けにスタンプラリー体験イベントを実施するなどして、宇治茶に親しむイベントを行った。</p> <p><b>【美味しい宇治茶の淹れ方体験（16回）】</b>  今年度は昨年度を超える回数のワークショップを、ショッピングセンター、円山公園、大学内と学内外様々な場所で行うことができた。各イベントでは参加者に対して淹れるお茶についての紹介を行ったりするなどして、積極的にコミュニケーションをとるなどの工夫をすることで、参加者に宇治茶について知っていただきつつ、楽しみながらワークショップに参加してもらうことができた。オープンキャンパスに出展した際は、お茶の淹れ方ワークショップを行いながら京都府外の高校生とも交流をした。  また、高齢者アカデミー生と宇治☆茶レンジャーのメンバーとの座談会形式で実施した。急須でのお茶淹れ体験をしてもらいながら交流し、京都文教大学の学生とアカデミー生という立場を越えて楽しめるように実施した。</p> <p><b>【茶香服体験ワークショップ（全5回）】</b>  茶香服体験を実施した。本来の形式とは違う煎茶、玉露、ほうじ茶の3種から当ててもらおうという簡易的な形式で、子どもから大人まで幅広い年代の方に楽しんでもらえるように工夫して行った。特に、見たり、匂ったり、触ったり、そして飲むという形で感覚を使って参加者に、茶葉を身近に楽しんでもらえるように実施した。</p>
----------------------	--

<p>具体的な事業内容</p>	<p><b>【日常的なミーティング】</b> 今年度は6名を新メンバーとして受け入れる事ができた。昨年度までと同様、ミーティングの中でメンバーがお茶を淹れる練習をし、8月の長期休みには宇治茶ムリエ講座をメンバー10名で受講した。普段聞くことのないお茶の知識を教えてもらいながら、宇治茶ムリエ認定書を貰うことができた。また、フィールドリサーチオフィスの職員さんに協力してもらいスタンプラリーのイベントについて考える時間を設けた。</p> <p><b>【その他】</b> 8月には宇治商工会議所が発刊している商工会議所 NEWS の記事のため共栄製茶株式会社森半様を取材しメンバーの目線で記事を書いた。株式会社ロハスタイル様、京都市ユースサービス協会様、関東学院大学様に、活動についてのインタビューを受け、活動について様々なところへ発信するきっかけにもなった。</p> <p><b>【SNSを使った情報発信】</b> お茶淹れワークショップなど出展するイベントを告知するほか二月に実施したデジタルスタンプラリーでのクイズの答えと解説を投稿するなど昨年度より多くの情報発信を行うことができた。</p>
<p>今年度、新たに実施した取組や、見直しや改善をしたところ</p> <p>※どんな目的で行ったか、その結果どんな成果があったか、具体的に記してください。</p>	<p>今年度、新たに実施したこととして高齢者アカデミーの学生との交流の場を3回ほど実施した。目的やきっかけとしては、自分たちがするワークショップの活動は親子連れや子供の世代の参加者は多いが高齢者の世代の参加が少ないという点があり、まずは高齢者アカデミーに参加している人たち向けに何かしてみたいと考えたところから始まった。実際に実施してみるとアカデミー生と茶レンジャーのメンバー同士が話をしながら盛り上がる事ができた。アカデミー生からは急須で淹れるやり方を知って実践することができたことや学生とのやり取りが新鮮で楽しかったという感想が寄せられた。また、スタンプラリーの体験という形でお茶屋さんを巡るイベントをしたが、初めて宇治橋通りを歩いた、お茶屋さんに行ったという反応もあった。高齢者アカデミー生向けに新たにイベントを実施した成果があったと考える。</p> <p>夏季休暇の長期休みに、フィールドリサーチオフィスの職員さんに協力してもらいながら、企画について考える時間を作った。そのおかげで、今年度新たに入ってきたメンバーが企画についてじっくり考える機会にもなり、イベントに向けてのスケジュールもあわせて考えることができ、イベントに向けて良いスタートダッシュを切る事ができたと考ええる。</p>
<p>事業の成果</p>	<p>(※地域や住民にもたらされた効果(※数値目標があれば記入してください。))</p> <p><b>【宇治茶スタンプラリー】</b> 今年度は2月に実施という形で行った。景品交換所に訪れた人数は376人であった。昨年同様クイズを取り入れ、スマートフォンを持っていなくても楽しんでいただけるようにした。参加者へのアンケートでは、「楽しかった」と回答した人の割合が92%であり、「来年も参加したい」と回答した人の割合は89%であった。アンケートに答えてくださった人数のうち66%の方が今年初めてスタンプラリーに参加したと答えており、スタンプラリーのイベントを通して、新たな層などが宇治橋周辺を歩く機会などを作り出せたのではないかと考える。宇治茶デジタルスタンプラリーを通して多くの人に宇治に訪れてもらうきっかけを作ることができたと考ええる。イベント期間中二度の3連休があったためお茶の淹れ方ワークショップやみんなでお茶当て☆茶レンジなども取り入れてイベントを行った。また、2月14日に宇治市高齢者アカデミーの方に向けてのスタンプラリーの体験イベントを実施して、参加してもらった。参加者からは、「宇治に住んでいるが宇治橋周辺のお茶屋さんを訪れる機会がなかったが、訪れる機会になった。」という感想を貰うことができた。また、イベント日にスタンプ回りきれなかった参加者が後日全部スタンプを集めて景品交換に訪れてくださったりして、イベントの参加への足がかりを作るという成果になったのではと考える。</p>



事業の成果	<p><b>【美味しい宇治茶の淹れ方ワークショップ】</b></p> <p>ワークショップを行うことで、たくさんの方に宇治☆茶レンジャーの活動や急須で淹れたお茶の魅力を伝えることができた。ワークショップを行う中で、多くの人に急須で淹れたお茶の魅力を普及させることができただけでなく、メンバーたちも普段淹れる事のない急須を使うという事を楽しみながら、教え方の上達を目指しつつワークショップに参加するという事も出来ていたと考える。淹れるお茶の種類の紹介をしながら、宇治茶を扱っている店舗を知ってもらうきっかけになり、宇治茶への親しみを増やす機会になったり、高齢者アカデミー生との交流の場づくりにも繋がったので来年度も引き続き行っていきたい。</p> <p><b>【茶香服体験ワークショップ】</b></p> <p>今年度は、昨年度に引き続き茶香服体験を行うワークショップを行った。回数を重ねて、どんな風に伝えたりするのが良いかと考えたりすることができ、参加者に茶葉に親しみを持ってもらえるように取り組んだ。このワークショップ中で、茶葉に触れてもらったりして、飲み比べるという内容は参加者にとっても好評で、わいわいととても盛り上がっていた。来年度の活動でも、今年度の経験を上手く生かし、茶香服体験ワークショップは続けていきたい。</p>
次年度への課題	<p>茶香服体験イベントを実施している中で、お茶に関する知識不足や、メンバーにより話す内容に統一性がないという課題が挙げられた。目的の中に宇治茶に関する関心を高める事を挙げているが、実現するためにはしっかりと知識を伝える必要があると考える。そのため、来年度はまずは一度実施している流れの内容の確認をして統一性を持たせ、お茶に関する足りない知識を学び、さらに茶香服体験を楽しんでもらえるようなイベントへと改善したいと思います。</p> <p>スタンプラリーの課題としては、クイズの制作なども含めて協力して下さるお茶屋さんの特色それぞれに合わせた連携が必要という課題も挙げられた。ただお茶屋さんに訪れてもらう機会を増やすだけではなく、お店ごとのニーズなどに合わせられるような方法がないかを考えていきたいと思っています。</p>
今後の展望や取組みたい・チャレンジしたいこと	<p>今後の展望としては、自分たちの活動をもっともっと知ってもらえるような取り組みにチャレンジしたいと考えています。理由としては、学生の力だけでは難しいことや影響力が低いことがあると思っています。そこで、自分たちの活動をいろんな人に知ってもらうことで、何かを始めるきっかけに繋がったりしていると考えています。今年度もユースシンポで団体の事を知ってくださった方からイベントの提案をいただいたりして実施することがあり、来年度も自分たちの活動もしっかり行いつつ、広報面でも力を入れられるような活動をしていけるようにしたいと考えます。</p>
アドバイザー教員からの評価 (コメント)	<p>(アドバイザー教員氏名) 森正美 (アドバイザー教員所属) 総合社会学部 実践社会学科</p> <p>(※学生から提出された「事業完了報告書」に目を通していただき、評価をご記入ください。)</p> <p>学年を超えて、協力しながら1年間の活動を実施できた点は良かったと思います。また、日常的にお茶を淹れる時間も多く持っており、そのことが多数のワークショップの開催や参加に繋がっていることも評価できます。ただ、メンバー個々の知識量の差、全体での知識レベルの向上のための学びの部分が曖昧になっているようにも思います。お茶の知識には限りがないので、もっと意欲的に学ぶ機会を作っていくことで、プロジェクトの内容の深化が図られるのではないのでしょうか。さらに、お茶を取り巻く社会的な状況やニーズの変化もあり、それらについても学ぶことで、より地域の実情や今後の方向性に即した活動内容を考えていけるのではないかと思います。</p>

地域 パートナー 連携先からの 評価 (コメント)	(御名前) (御所属)	通円祐介 株式会社通圓 通圓茶屋
	(※学生から提出された「事業完了報告書」に目を通していただき、評価をご記入ください。) 1年間を通して、毎月のようにワークショップを通して宇治茶の宣伝をして頂きありがとうございました。開催場所と、イベントの宣伝方法から参加者は京都府内の方が中心かと思われますので、来年度は「茶づな」や「京都府茶業会館」などの施設も活用して、他府県からの参加者も多くなるようなイベントを開催していただければと思います。宇治☆茶レンジャーの以前の活動をご存知の宇治茶ファンの中には、オリジナル朝顔碗を集められていた方も多いため、またグッズなどの復活も期待しています。スタンプラリーに関しては、小学生を中心に家族で楽しまれている姿も多くみられました。期間が長くなったため、茶畑や茶園連史跡のポイントが無くなりましたので、来年度は週末限定でも茶畑や、復活した「宇治七茗園石碑」、国宝に登録された萬福寺などのポイントやクイズも追加するなど、内容をアップデートしていただければと思います。	
地域 パートナー 連携先からの 評価 (コメント)	(御名前) (御所属)	福井景一 福文製茶場
	(※学生から提出された「事業完了報告書」に目を通していただき、評価をご記入ください。) コロナ禍の頃が嘘の様に対面での活動が活発になり、一斉にイベントやワークショップが増えて大変忙しく過ごされたのではないのでしょうか。学内での活動も多かった為か、私自身が直接お目にかかる機会は有りませんでしたが、沢山の活動を繰り返される中で知識やスキルなども向上されたのではないかと思います。 宇治橋商店街や平等院通り、小倉のニンテンドーミュージアム付近などに行くと感じますが、海外の方が沢山訪れ景色が一変しています。また世界的と言って良い程の空前のお抹茶ブームが訪れています。このような事象も念頭に、次期には従来の形にとらわれずに新しい切り口でアイデアを持ち寄って新しいイベントに茶レンジしてみたいと思います。	

**都文教大学地域連携学生プロジェクト 2024  
事業実績書**

プロジェクト名	KASANEO
事業実施地域	京都文教大学・宇治市
連 携 先	地域パートナー：うじテレビ、宇治市健康長寿部長寿いきがい課 主な連携団体等：北横ハーモニー
活動の種類	(該当するものを○で囲んでください。複数選択可) 1 環境保全活動      2 子育て支援活動    ③ 共助型福祉活動    ④ 地域の安心・安全 5 地域美化活動      6 地域産業おこし    7 地域商業の活性化   8 農村・都市交流活動 9 地域スポーツ振興   ⑩ 地域文化活動    ⑪ 地域行催事 ⑫ その他（自然な多世代交流の場づくり）
主な活動	( 3 ) 番    選択された番号のうち、もっとも重点においている活動を1つ選んでください。
プロジェクトの目的・目標 (目的を達成するための指標・数値等)	<p>※目的…申請書に書いた内容をまとめて記入ください。          ※目標…申請書に書いた具体的な数値等を記入ください。</p> <p><b>【プロジェクトの目的】</b>          衣服以外の様々な知識を増やしたいという若者と、若者とたくさん関わりたい高齢者、双方のニーズにこたえられるような、世代の異なる者同士でも自然に会話し、交流できるようにするため、20年周期で流行するといわれている「ファッション」を共通のテーマとし、自然な多世代交流を可能にする場づくりを目的とする。</p> <p><b>【プロジェクトの目標】</b>          今年度の採択選考会で出した目標は3つあり、          ① KASANEO 主催イベント「KASANEO FES」の目標来場者数 250 名。          ② KASANEO の情報広報紙「KASANEO 通信」を再度発行すること。          ③ KASANEO のイベントを多数参加数することにより、クオリティ低下の懸念があるためイベント参加数を月1回～2回として目標と定めた。</p>
プロジェクトの目的・目標の達成具合 (具体的な数値を記載する)	① KASANEO FES の来場者数は約 100 人であった。目標達成にはならなかったが、新しい取り組みを行うことができた。 ② KASANEO 通信の発行ではなくイベントに関するチラシを作成し、計 15 種類のチラシを作成した。また、今年度からホームページを開設し、月に 1 回、内容を更新している。 ③ 目標のイベント参加数月 1～2 回より多くなり、年 20 回以上のイベントに参加することができた。1つひとつのクオリティーを低下することなく行うことができた。
上記の目標値がプロジェクトの目的にどのような影響を与えたと考えるか	①の KASANEO FES の目標来場者数 250 人にはとどくことができなかったが、「自然な多世代交流の場づくり」を作るという点では達成することができた。場所は、昨年と同様に人が立ち寄りやすい「中宇治 base」で開催し、たくさんの人に楽しんでもらえるように、「展示会」や「カフェブース」「フリーマーケット」などを行った。また、昨年の KASANEO FES では行っていなかった、「ファッションショー」も開催することができ、開催されている時間帯に多くの人が集まったため、その場の感想などを基に話すことができたため、より“自然な多世代交流の場づくり”を実現することができた。 ②の KASANEO 通信の発行自体はできなかったが、今年度はイベントのチラシを作成することが多く、そのチラシを京都文教大学のフィールドリサーチオフィスから発行している「Spiral Up」と一緒に発行することもできた。実際に、「チラシに載っていたからイベントに参加した」という人も複数いた。また、Web サイトを開設したことにより、手軽に KASANEO のイベント告知や内容を幅広い世代の人に知ってもらうことができた。



<p>上記の目標値がプロジェクトの目的にどのような影響を与えたと考えるか</p>	<p>③のイベント1つち1つのクオリティを担保するために、イベント参加数の目標を1～2回としていた。しかし、実際は目標指数よりも多い回数イベントに参加または開催することが多くなった。仕事の役割を学年問わず分担することにより、どのイベントもクオリティを低下させることなく行うことができた。また、どのイベントでも積極的に学生から参加者に話しかけることができたため、結果的にはどのイベントでも学生が主体の学生が主体の「自然な多世代交流の場づくり」を作ることができた。</p>
<p>具体的な事業内容</p>	<p>(※事業の趣旨、実施日時、場所、参加者の状況、事業内容等)</p> <p><b>【具体的な事業内容】</b></p> <p>4月 新入生歓迎会 ショッピングセンターイズミヤ六地藏店 タイダイ染め</p> <p>5月 コーヒーフェスティバル（宇治市植物公園）ファッションショーで参加</p> <p>6月 榎島福祉の園 タイダイ染め 採択選考会 商工会議所 NEWS 猫のしっぽ取材 中宇治 yorin 衣服譲り受け会</p> <p>7月 一般社団法人キャリアビジョン協会から取材を受ける オープンキャンパスに参加 1回</p> <p>8月 スナック撮影会（お茶と宇治のまち歴史公園茶づな） オープンキャンパスに参加 3回</p> <p>9月 全国まちづくりカレッジ in 伊勢 イオンモール久御山 無印良品との共同ファッションショー・タイダイ染め 参加人数 100 人（満員）</p> <p>10月 中宇治 yorin 衣服譲り受け会 のじり葬儀店さん共同 終活セミナー 久御山スマイルフェスティバル ファッションショー・フリーマーケット わんさかフェスタ フリーマーケット</p> <p>11月 ともしきフェスティバル タイダイ染め すばる高校高大連携ゼミファッションショー・フリーマーケット</p> <p>12月 KASANEO フェス（中宇治 BASE）来場者数約 100 人</p> <p>2月 イオンモール高の原 衣服譲り受け会 健康長寿フェスティバル（宇治市生涯学習センター）参加人数約 30 人</p> <p>3月 イオンモール高の原 ファッションショー 成果報告会</p> <p>常時実施 来年度への引継ぎ 学生ミーティング（週1回） オールミーティング（月1回）</p> <p><b>【事業内容の詳細】</b></p> <p>・タイダイ染め イベントに参加された方と共に想い出を作るワークショップを昨年度から引き続き開催。今年度はイオンモール久御山や、榎島福祉の園、などで4度行い、年代を問わずたくさんの方々に楽しんでいただき、交流を深めることができた。</p>

<p>具体的な 事業内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スナップ撮影会イベント＋雑誌作成 参加者はカメラ好きやモデルをしてみたいという学生を募集し、モデルには私服に思い出衣服をコーディネートして着用してもらい、地域に出て写真撮影を行う。撮影した写真を衣服の思い出と合わせて掲載し雑誌を作成する。多世代に関心を寄せてもらうことを目的とした広報媒体として他のイベント参加者に配布したり、地域の様々な施設に配してもらう。今年度は昨年3月に源氏物語ミュージアム、宇治上神社、8月にお茶宇治のまち歴史公園茶づなで撮影を行い、学生メンバーだけでなく、シニアメンバーもモデルとして参加。交流雑誌の制作を通して、KASANEOの活動内容を様々な人に知ってもらうことができた。</li> <li>・衣服譲り受け会 今年度から新たに行った直接衣服を譲り受ける取り組みであり、中宇治 BASE、宇治市生涯学習センター、イオンモール高の原にて4度開催。譲り受ける際、その衣服を着ていた当時の思い出などを学生メンバーが聞き取り、提供者様との交流を深めた。</li> <li>・KASANEO FES 昨年12月に中宇治 BASE にて開催。誰もが気軽に集える「居場所」を目的に毎年開催している。地域の方々や観光客など様々な人たちと交流することができた。</li> <li>・展示会 今年度作成した交流雑誌で掲載している思い出の衣服の展示。</li> <li>・フリーマーケット 思い出の無い衣服を100円から販売し衣服の循環を行う。</li> <li>・衣服のリメイク 学生メンバーの衣服と KASANEO オリジナルスウェットをリメイクしたパッチワークシャツの展示を行った。</li> <li>・カフェブース シニアメンバーや卒業生が中心になってカフェブースを設け、来場者の方と交流を深める場づくりを行った。</li> <li>・ファッションショー 中心メンバーである全3年生がモデルとなり、ファッションショーを開催。</li> <li>・高大連携ゼミ（京都すばる高校）との共同事業 京都すばる高校3年生10名程度と一緒に衣服を通じた世代間交流を考え、その成果を地域の中で発表する。今年度はともいきフェスティバルにてファッションショーを開催。高校生が中心となり、家族との思い出の衣服を着用してランウェイを歩いた。</li> </ul>
----------------------	---

<p>今年度、新たに実施した取組や、見直しや改善をしたところ</p> <p>※どんな目的で行ったか、その結果どんな成果があったか、具体的に記してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服譲り受け会の実施           <p>→これまで、衣服を譲り受ける際は提供者から直接頂くという方法で行っていたが、「どこに持っていけばいいのか分からない」という問題があった。今年度からは衣服を譲り受けることを定期的なイベントにして行った。</p> <p>衣服譲り受け会を行ったことにより、これまで KASANEO との関わりが少なかった世代の方からも衣服を譲り受けることが出来た。</p> <p>また、地域の方々とのコミュニケーションも盛んに行うことができ、地域の方々に多世代交流の場づくりを提供することができた。</p> </li> <li>・商業施設でのイベント実施           <p>→今年度新たな取組みとして KASANEO ではイオンモール高の原やイオンモール久御山といった商業施設でのファッションショーや宇治市以外でのイベントを行った。</p> <p>宇治市の活動がメインとなっていることから KASANEO の存在を認知している方々の環境下で行うことが多かったが、これらの活動を通して、宇治市以外の住民に多世代交流の場づくりの提供や KASANEO の活動について知ってもらうことが出来た。</p> </li> <li>・ホームページの作成           <p>→今年度から、KASANEO では独自のホームページを作成することを行った。これまで各種 SNS での広報活動を行っていたが、それらを閲覧できない人がいる問題や活動内容が伝わりづらいといった課題があった。</p> <p>ホームページでは、これまで発行した交流雑誌やイベント情報も掲載していることから幅広い世代の方々に情報共有を行うことが出来た。</p> </li> <li>・高齢者スマホ教室の実施           <p>→スマートフォンを使う中での悩みを持つ高齢者層に学生が使い方をレクチャーして欲しいといった声があったことから新たな取組みとして、スマホ教室を実施した。</p> <p>スマホ教室を通じて、新たな形の多世代交流の場として活動を行うことができた。また、来場された方々にイベント情報を宣伝することができ、KASANEO の存在を認知させることができた。</p> </li> <li>・各種 SNS での発信           <p>→これまで、KASANEO では X やインスタグラムのアカウントを保持していたが発信を行うことが少なくなっていたことから積極的な発信を行うように見直すこととした。</p> <p>具体的な見直した点として、イベントの告知やイベント後に感想を投稿することでイベント集客の向上と KASANEO の知名度を上げることを目的とした。</p> <p>SNS の運用を見直したことによって、イベント依頼や知名度が一定程度向上することが出来た。</p> </li> <li>・イベント実施時の目的・目標の再確認           <p>→これまでイベントを実施時、目的・目標を設けずにしたことにより、個々の理解の幅に差異がありグループの士気が下がるという課題があった。</p> <p>目的・目標を再確認したことによって、具体的な数値目標などを意識することができ、個人がどのように行動するべきなのかが分かるようになった。</p> </li> </ul>
---	--

事業の成果	<p>(※地域や住民にもたらされた効果(※数値目標があれば記入してください。))</p> <p>今年度何度も開催したタイダイ染めワークショップでは、自らハンカチやカバンなどを染める。参加者それぞれの絞りで個性が現れ世界にひとつだけのものが出来上がる。ショッピングセンターイズミヤ六地藏店や横浜福祉の園、イオンモール久御山の無地良品と共同のタイダイ染めワークショップなど学外で行う機会が増えた。普段なかなか接点を持っていない人々とも交流が生まれた。横浜福祉の園では利用者さんやスタッフの方とコミュニケーションをとることができた。イオンモール久御山と無印とのコラボでは、無印良品のトートバックを使用し買い物中の家族連れを対象にタイダイ染めワークショップを行った。ワークショップを通して、KASANEO メンバーと参加者との交流も自然と生まれた。「どんな色がいい?」「この模様どうやって作るの?」など初対面同士でも会話が弾み打ち解けることができた。また、参加者同士でも会話が弾み年代を問わず自然な多世代交流ができていた。完成した作品をみて参加者からは「またやってみたい」という喜びの声をもらうことができ、イチからものを作ることで制作過程が思い出となる。多世代交流の楽しさを知ってもらうのに加えて、作品が形として残ることはワークショップ自体も思い出となり、参加者満足度も非常に高いイベントとなった。年齢や背景を問わず共通の経験を通して新しい思い出ができることはタイダイ染めワークショップを開催した意義を強く感じるイベントであった。</p> <p>「思い出はあるけれど捨てられない衣服をどこに持って行けば良いかわからない。」という声が多く寄せられたため、今年度から本格的に「衣服譲り受け会」を開催した。衣服譲り受け会は、中宇治 yorin やイオンモール高の原など学外で積極的に行うことで、終活を見据えた高齢者の方を中心にたくさんの人に思い出のある衣服を提供していただいた。提供者と衣服の思い出について話をするすることで「思い出があったが捨てられなかったため、KASANEO に譲ってよかった」と声をいただき、着なくなった衣服を思い出として次に受け継ぐことができた。</p> <p>また、10月には中宇治 yorin にてのじり葬儀店さんと共同で終活セミナーをおこない終活について知識がある人も、そうでない人もセミナーを通して「終活とは何か」について深めることができた。セミナーでは終活の準備や、エンディングノートの書き方についてのじり葬儀店の方にセミナーを行っていただき、終活を身近に感じてもらえるようになった。セミナー後半では、質問コーナーを設け「終活は何から始めたらいいのか」など終活に対する率直な意見が出た。終活は自分のことだけではなく、家族のことも考えることが重要であるとセミナーを通して感じ、「家族との会話もこれからもっとしていきたい」という声も多く寄せられた。「終活＝暗いもの、死の準備」ではなく、「これからよりよく生きる準備」「家族との関係を見直す機会」であるという前向きな新しい考えが生まれた。このセミナーを通して知識がある人、ない人関係なく気軽に終活について考える機会を設け、家族との関係を見つめ直す機会になることを実感した。</p> <p>今年度の健康長寿フェスティバルでは衣服譲り受け会とスマホ教室を開催した。スマホ教室では高齢者の方を中心にスマホの使い方を学生とともに解決した。「使い方が知れて助かった」と喜びの声をいただくことができた。また、スマホ教室を通して、高齢者の方がどのような方法で情報を得ているのか知る機会となった。紙で情報を得ているのか、メールで情報を得ているのか知ることができ、今後の KASANEO のイベント情報を発信する方法を考える機会となった。紙媒体ではなくインターネットや line で情報を収集しているということがわかったため、今後のイベント情報を知ってもらう手段として KASANEO の公式 line を作るという案が出た。実際に高齢者の方と話し、情報をどのように収集しているのかを知ることで発信の方法を見直す機会となった。</p>
-------	--

<p>次年度への課題</p>	<p>今年度行った豊富な活動や参加したイベントを通して、KASANEO の認知度の向上や、メンバー達の KASANEO を通した多世代交流は十分に行うことが出来た。しかし、イベントに参加してくれた方同士の交流や、新たな関係を作り出す場づくりに関してはあまり芳しくなく、KASANEO と参加者の多世代交流というかたちになってしまっており、ファッションにテーマに多世代交流が出来ることは伝えられたが、“それを自然に実践してもらおう場づくり”は、我々の課題と言える。</p> <p>その為、メンバーがその場で参加者同士の交流を積極的に促したり、グループに分かれるワークショップをしたり、自然に会話が生まれる仕掛け、工夫を行っていきたいと考えている。</p> <p>また、今年度から始めた「衣服譲り受け会」のイベント開催日以外の日「思い出の衣服を持っていきたい」という高齢者の方からの声があった。その場合の対応がメンバー内で決めておらず、案内をすることができなかった。そのため、常時開催として月に一度学内で衣服を譲り受けする日にちを決めて、メンバー内で把握し、案内できるようにする。</p>
<p>今後の展望や 取組みたい・ チャレンジし たいこと</p>	<p>今後は継続的なイベント開催、参加を通して自然な多世代交流の場づくりを行いつつ、今年度から注力し始めた SNS (X,IG など) を通した広報活動や、参加するイベント内での「場づくり、メンバーの交流の仕方」に目を向けて新たなマインドセットで活動を行っていきたいと考えている。また、KASANEO FES で行ったプロジェクターを使ったフォトスペース、VJ といった“衣服をより新鮮に魅力的に見せる”ことにもチャレンジしていきたい。また、まちづくりカレッジがきっかけで現在香川大学とのイベントが予定され、進行している。そのような、他大学や他府県とのコラボレーション、イベント参加も機会が訪れた際は積極的に行っていきたいと考えている。</p>
<p>アドバイザー 教員からの 評価 (コメント)</p>	<p>(アドバイザー教員氏名) 黒宮一太 (アドバイザー教員所属) 京都文教大学総合社会学部実践社会学科</p> <p>(※学生から提出された「事業完了報告書」に目を通していただき、評価をご記入ください。)</p> <p>今年度の KASANEO は、これまで以上に数多くの各種企画に参画し、プロジェクトの目的である「自然な多世代交流の場づくり」に取り組んだことが評価される。とくに今年度は、タイダイ染めワークショップや思い出衣服の譲り受け会の開催など、宇治市等の近隣自治体の商業施設等を活用し、これまで以上に「地域の人たちとのかかわり」を意識して意欲的にプロジェクトを進めたことが高く評価される。また、2 月と 3 月にイオンモール高の原で開催した思い出衣服の譲り受け会とファッションショーとを連動させた取り組みでは、地域の人から譲り受けた思い出のつまった衣服をファッションショーで披露し、思い出衣服を新たなかたちで蘇らせることができ、KASANEO の今後の新しいかたちの 1 つをつくりあげることができ、次年度以降の活動に大きな期待を抱かせるものになったと評価している。こうした意欲的で充実した 1 年間の取り組みが可能になったのも、3 回生を中心に、2 回生、1 回生、それから 4 回生やシニアメンバーとが「チーム」として活動できたことによるものと考えられる。今年度の活動についてしっかりとふりかえり、次年度の課題も明らかにしていることから、次年度もまた、さらに面白い KASANEO になっていくことを、アドバイザー教員としてだけでなく、KASANEO というチームの一員として、いまからとてもワクワクしている。</p>

<p>地域 パートナー 連携先からの 評価 (コメント)</p>	<p>(御名前) 森田誠二 (御所属) うじテレビ</p>
	<p>(※学生から提出された「事業完了報告書」に目を通していただき、評価をご記入ください。)</p> <p>ファッションを媒介にして、若者と高齢者の交流を促進するという本プロジェクトの目的に共感し、地域メディアのうじテレビとしては、連携することで地域においてさらに大きな共創し、まちづくりに貢献すること可能性を感じた。</p> <p>連携の手法としては、①場の提供…中宇治 yorin2 階にあるうじテレビスタジオを衣服譲り受け会の会場として6月23日と10月6日の2回使ってもらうことで新たな参加者を得ることができたと思う。②衣服譲り受け会の模様を動画制作して、うじテレビでyoutube発信することで微力ながら活動訴求に貢献できたと思う。(再生回数 193回 R7年3月3日現在)</p> <p>活動の様子を間近に見て、衣服を持参した高齢者のイキイキした表情が印象的で、それを引き出す KASANEO のメンバーのコミュニケーション能力の高さには驚いた。</p> <p>とても有意義な活動であり、より大きな広がりにもってほしい。</p> <p>例えば古着をアップサイクルしてエシカル消費に繋げ、より共感する人の広がりを生み出す京都女子大の「KUMO」の活動なども参考にもらい、さらなる発展を期待したいと思う。</p>



**京都文教大学地域連携学生プロジェクト 2024  
事業実績書**

プロジェクト名	KminK
事業実施地域	京都府久世郡久御山町
連 携 先	地域パートナー：久御山町 総務部 企画財政課・都市整備部 建設課 主な連携団体等：久御山高等学校、KUMIDAN、NPO 法人ひと・まち・ジャンクション
活動の種類	(該当するものを○で囲んでください。複数選択可) 1 環境保全活動      2 子育て支援活動      3 共助型福祉活動      4 地域の安心・安全 5 地域美化活動      6 地域産業おこし      7 地域商業の活性化      8 農村・都市交流活動 9 地域スポーツ振興      10 地域文化活動      ⑪地域行催事      ⑫その他（自治会活性化活動）
主な活動	( 12 ) 番 選択された番号のうち、もっとも重点にしている活動を1つ選んでください。
プロジェクトの目的・目標 (目的を達成するための指標・数値等)	<p>※目的…申請書に書いた内容をまとめて記入ください。 ※目標…申請書に書いた具体的な数値等を記入ください。</p> <p>①久御山町で強めるつながり—久御山町が抱える課題の解決案を検討・提案 自治会の活性化、地域住民が暮らしやすい街づくりへの貢献を目指す。KminK は行政に寄せられた地域住民の声を伺い、行政との協議を行いながらそれらの実現・解決に向けた企画を立案する。そのために、久御山町役場や各自治会と定期的に話し合う場を設け長期継続的な連携体制の構築を図る。今年度は昨年度連携した3つの自治会等に加え、新たに2つの自治会と連携を図り、新たなイベントにも2つ以上参加していきたい。</p> <p>②久御山町で広げるつながり— KminK 主催イベント及びブースの企画・運営 昨年度から引き続き KminK 主催イベントである「くみやまスマイルフェスティバル」を開催する。KminK は学生という立場を活かし、これまで地域になかった視点から、久御山町に新たなつながりを生み出すことを目指す。具体的に、今年度は他のイベントでできた繋がりを活かし、合計 15 団体以上の団体との出店を目指す。また、イベントの参加者に向けて感想を答えてもらうアンケートにおいて、回答者数を 50 名を目標とする。また、実施するアンケートの結果は協力団体にフィードバックを行う。</p> <p>③久御山町から届けるつながり—久御山町に関する積極的な活動発信 本事業での取組みについて、久御山町内外に向けた広報活動を積極的に行う。 前年度に委嘱された久御山町産業大使の活動を継続し、SNS を通じて久御山町の魅力を町内外に発信していく。具体的には、四季折々の町の風景やオススメのお店紹介などを週に 1 回以上発信する。 また、久御山町外のイベントでは、久御山町に関するクイズラリーの実施や久御山町内で販売している商品の委託販売を行い、久御山町外の人が久御山町に興味を持ってもらうためのきっかけをつくれるように取り組んでいく。久御山町外のイベントに2回参加することを目標とする。</p>
プロジェクトの目的・目標の達成具合 (具体的な数値を記載する)	①久御山町で強めるつながり—久御山町が抱える課題の解決案を検討・提案 今年度は、新たに関わった自治会が1つ（東佐山団地自治会）のみであり、目標であった2つ以上の自治会と連携することは出来なかった。しかし、新たなイベントに3つ以上参加することができ、久御山町の団体とつながることが出来た。

<p>プロジェクトの目的・目標の達成具合（具体的な数値を記載する）</p>	<p>②久御山町で広げるつながりー KminK 主催イベント及びブースの企画・運営</p> <p>「くみやまスマイルフェスティバル」では、来場者数は約 200 名で、前年度に参加した団体に加え、新規で 5 団体、合計で 15 団体に協力をしていただき、無事開催することが出来た。しかし、イベントの来場者に向けてのアンケート調査を行ったが、アンケートの協力の依頼が十分に出来ておらず、回答方法が Google フォームのみであったため、回答者が 9 名となっており、目標を著しく下回った。</p> <p>③久御山町から届けるつながりー久御山町に関する積極的な活動発信</p> <p>2023 年に久御山町産業大使の委嘱を受け、久御山町にあるお店やイベントのことなどを週一回以上・48 件の投稿をすることが出来た。今後は施設などだけでなく、町の風景にも着目してみることで、新たな魅力を発見する。</p>
<p>上記の目標値がプロジェクトの目的にどのような影響を与えたと考えられるか</p>	<p>①久御山町で強めるつながりー久御山町が抱える課題の解決案を検討・提案</p> <p>昨年度に比べ、新たなイベントへの参加を増やすことができた。これにより地域の方々との関わりを増加させることができ、KminK の知名度の上昇や、メンバーの名前や顔を知ってもらうことができた。そこから、新たな団体などにつながるきっかけとなったり、役場からの聞き取り調査や久御山町に関わる会議などに参加させていただくこともできた。</p> <p>さらに、今年度は新たに関わった東佐山団地でスマホ教室を開催した。</p> <p>スマホ教室は、団地全体の高齢化によりスマートフォンや LINE 等の使用に困難がある方を対象に行った。団地では回覧板のデジタル化等を進めており、このスマホ教室は自治会のデジタル化を進めるのに貢献している。少人数で行われたため、高齢者のスマホの諸問題の解決に加え、交友を深めることも出来た。スマホ教室は好評により、複数回実施しており、来年度以降も開催予定である。今年度新たに関わった自治会は東佐山団地のみであったが、繋がりを強めながら久御山町が抱える課題の解決のために活動出来たと考える。</p> <p>②久御山町で広げるつながりー KminK 主催イベント及びブースの企画・運営</p> <p>「くみやまスマイルフェスティバル」では、新規で 5 団体、合計で 15 団体のご協力を得ることができた。これは、イベントの雰囲気さがさらに盛り上がり、団体との関係の構築に繋げることができたと考えられる。地域イベントのターゲットになりにくい高校生、大学生を巻き込んだイベントで地域参加しにくい若者層の参加も多かった。一方で、久御山町における、くみスマの位置付けが明確でない部分もあり、くみスマのテーマを改めて考える必要性がある。</p> <p>KminK と各団体との繋がりは築いてきているため、KminK が団体同士の橋渡しを行い繋がりを広げていきたい。また、久御山町以外に住んでいる学生などにも働きかけ、久御山町に来てもらえるきっかけ作りを行っていきたい。</p> <p>③久御山町から届けるつながりー久御山町に関する積極的な活動発信</p> <p>久御山町にあるお店に訪れてあらゆるお話を伺いつつ、目標であった週一回程度の更新を達成し、メンバーが久御山町へ実際に行って魅力を感じることが出来た点が良かったと思い、来年度以降も続けていきたいと思う。一方で、発信力は高いとは言えず、週 1 回程度の更新で合計 48 件と産業大使として定められている必要最低限の投稿しかできなかったが、これからの KminK が久御山町で活動するための意欲向上が図ることが出来た。</p>
<p>具体的な事業内容</p>	<p>（※事業の趣旨、実施日時、場所、参加者の状況、事業内容等）</p> <p>①行政・自治会など地域と連携した各種イベントの企画・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ KUMIDAN 主催「まちのがっこう」（2024 年 4 月 14 日） KUMIDAN ブースの補助、折り紙ワークショップ、久御山クイズラリーを行った。</li> <li>・ MAHALO MARCHE 主催「久御山コミュニティ祭り」（2024 年 5 月 12 日） MAHALO ブースの補助を行った。</li> <li>・ 栄 1・2 丁目自治会主催「春のガーデンパーティー」（2024 年 5 月 26 日） 自治会のブースの補助を行った。</li> </ul>

<p>具体的な 事業内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NPO 法人 ひと・まち・ジャンクション運営「のこのこ村」定期訪問開始 (2024 年 5 月 29 日)</li> <li>・ 東佐山団地自治会「スマホ教室」(2024 年 7 月 7 日、9 月 22 日) スマホの基本的な使い方講座を行った。</li> <li>・ のこのこ村「水鉄砲あそび」(2024 年 8 月 7 日、8 月 21 日) 子どもと大人が一緒に遊べるようなイベントを企画した。</li> <li>・ 栄 1・2 丁目自治会主催「地藏盆・夏のつどい」(2024 年 8 月 18 日) 集会所内で行われたブースの補助やビンゴ大会の補助を行った。</li> <li>・ イオンモール久御山イベント (2024 年 9 月 21 日) 久御山クイズラリーを行った。</li> <li>・ MAHALO MARCHE 主催「HALLOWEEN 祭」(2024 年 10 月 19 日) 設営の補助やイベントのお手伝いをさせて頂いた。</li> <li>・ 栄 1・2 丁目ホワイト子ども会主催「ハロウィンイベント」(10 月 28 日) 子どもたちが安全にラリーを実施できるよう、引率や声かけを行った。</li> <li>・ KUMIDAN 主催「わくわくフェスタ」(2024 年 11 月 3 日) イベントの補助やわくわくワークで久御山中央公園について地元の方の意見を聞いた。</li> <li>・ 栄 1・2 丁目自治会主催「栄 1・2 マルシェ」(2024 年 11 月 10 日) イベント運営の補助や各ブースの補助を行った。</li> <li>・ 久御山町町制施行 70 周年記念 まちづくりプラン会議 ～久御山町の未来を考える町民 Talk～ (2024 年 11 月 30 日～) 町の将来像を考える「第 6 次総合計画」について、町民に未来の久御山町について意見を出し合い、町長へプレゼンを行った。</li> <li>・ KUMIYAMA MIZUBE STATION PROJECT トライアルワークショップ (2024 年 12 月 21 日～2025 年 3 月 10 日) 宇治川河川敷周辺に新たな施設を建てるにあたり、意見を出し合った。</li> </ul> <p>②久御山町民の意見収集の場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ KminK 主催「くみやまスマイルフェスティバル」(2024 年 10 月 14 日) 久御山町内の新たな繋がり場を作り出すことを目的に、KminK 主催イベントの企画・運営を行った。</li> </ul> <p>③ SNS を用いた久御山町の積極的な活動発信や KminK の活動紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 久御山町産業大使 (毎週／2024 年 5 月 25 日より開始) 一昨年より久御山町産業大使に委嘱され、Instagram にて久御山町に関する投稿を発信した。</li> <li>・ 全国まちづくりカレッジ@伊勢 (2023 年 9 月 4～5 日) 全国の「まちづくり」に関わる大学生とともに発表会やフィールドワークに参加した。</li> <li>・ 本学主催「ともいきフェスティバル」(2024 年 11 月 24 日) KminK 初めての試みとなる委託販売を行った。</li> </ul>
----------------------	---

<p>今年度、新たに実施した取組や、見直しや改善をしたところ</p> <p>※どんな目的で行ったか、その結果どんな成果があったか、具体的に記してください。</p>	<p>・NPO 法人 ひと・まち・ジャンクション運営「のこのこ村」への定期訪問</p> <p>月に一度、のこのこ村へ訪問し、主に子どもたちとの交流を図った。KminK はこれまで久御山町で開催されるイベントで子どもたちと関わる機会が多くあったが、「イベントだけで関係を終わらせるのではなく、定期的に会うことで子どもたちとの繋がりを強めていきたい」、「福祉領域との関わりを増やしたい」、「自分たちで企画を作って子どもたちに喜んでもらいたい」という思いがあり、今年度から連携させて頂くことになった。実際に定期訪問をさせて頂き、宿題を見たり様々な遊びをしたりして交流を深めた。また、8 月には KminK 側で「水鉄砲遊び」を企画した。</p> <p>このような活動を通して、のこのこ村に来ている子どもたちに顔を覚えてもらい、遊びや宿題を通して仲を深めることができた。また、KminK 主催「くみやまスマイルフェスティバル」にて、のこのこ村で一緒に遊んだ子どもとお話をすることができた。定期訪問を通して繋がりをを感じる事ができた出来事だった。</p> <p>・東佐山団地からスマホ教室の依頼</p> <p>団地の回覧板のデジタル化等を促進するにあたり、高齢者の方にとってスマートフォンの操作はわからないことが多いという現状を受け、KminK が高齢者のスマートフォンに対するお悩みに向き合い、少しでもスマートフォンに対する苦手意識を取り除ければという思いで依頼を引き受けた。</p> <p>高齢者の中には、「何を聞けば良いのかもわからない」とおっしゃった方もおられ、「この機能はご存知ですか？」などと自ら働きかけることの重要性に気づくことができた。最後には、「ありがとうございます」、「また開催してほしい」というありがたいお言葉も頂くことができた。</p> <p>・本学内で開催された「ともいきフェスティバル」での委託販売</p> <p>久御山町内でしか営業していないお店に代わり、KminK が商品を請け負って委託販売を行った。今回は「光栄堂」「komughi」の2店舗にご協力を頂き、開始2時間程で完売した。久御山町にあるお店のスイーツ、フードを知っていただく良い機会になった。</p>
<p>事業の成果</p>	<p>(※地域や住民にもたらされた効果 (※数値目標があれば記入してください。))</p> <p>今年で2回目の開催となった KminK 主催イベント「くみやまスマイルフェスティバル」では、久御山町という地域の中で久御山町との繋がり、出店者および来場者との繋がり、久御山高校や大学内プロジェクトとの繋がりなどの学生同士との繋がりを深められたことを実感しており、このイベントを新たな繋がりを作る場とすることができた。</p> <p>久御山町の第6次総合計画の策定と町制施行70周年に際し、「まちづくりプラン会議～久御山町の未来を考える町民 Talk～」に参加させて頂き、学生の立場から意見を出し、久御山町が行っていることに直接的に関わることができた。その他にも「KUMIYAMA MIZUBE STATION PROJECT トライアルワークショップ」やともいきフェスティバルにおける久御山クイズ、久御山町産業大使の活動を通して、久御山町で地域で新たに行われる事業に参加し、町民の意見や思いなども聞くこともでき、自治会で起きている課題に対して意欲的に取り組めるきっかけになった。そして、地域の一員として、イベントの運営補助や作業のデジタル化推進にも携わることができた。</p> <p>KminK は久御山町出身者が1名しか居ないため、メンバーの地元と比べた意見や、久御山町外から見た魅力を久御山町の方々に認識してもらうことが出来たと考える。</p>

次年度への課題	<p>①イベントの運営</p> <p>KminK 主催イベント「くみやまスマイルフェスティバル」を実施することが出来た。久御山町や KUMIDAN、久御山高校をはじめとする関係団体のお力添えにより、成功を収めることが出来たが、課題が大きく残る結果ともなった。具体的には、イベント運営の際に役割分担に関する打ち合わせ不足があった。また、認識のばらつきにより、必要な行動が曖昧になることがあった。メンバー内のスケジュールの共有や、運営にあたって必要なことを明確化させるなどの体制を強化していきたい。</p> <p>②チームの運営</p> <p>久御山町内でのイベントは、これまで繋がりなかった自治会の地域住民の皆さまとの接点をもつことができる貴重な機会である。イベントの運営・参加を、新たな連携先や活動の拡大へと繋げていきたい。KminK を身近な存在として認識していただけるよう、これまで以上に多くのイベントに関わることが目標である。</p> <p>しかし、イベントへの参加率が低く、運営補助などに必要な人数が集まらないことがあり、任される運営補助の範囲が狭くなってしまうため、KminK メンバーのイベントへの参加率を上げ、次世代への引継ぎ強化を行っていきたい。</p> <p>③目的の明確化</p> <p>くみやまスマイルフェスティバルでは、お客様が参加してどのような感想をお持ちになったのかを知る為にアンケートを行った。だが、集まったアンケート数は9件であり、多くの意見を収集することができなかった。くみスマのアンケートが十分に集まらなかった要因として、紙媒体での準備ができていなかったことが一つ挙げられる。どれぐらいの方が参加し、どのような感想を持ったのかを把握する為に、自分たちからもっとアンケートの協力を働きかけたり、アンケートに答えようと思って頂ける取組みを考えたりする必要がある。アンケートを幅広く集め、新たな繋がりを増やせるような場作りの実現ができるように取り組んでいきたい。</p>
今後の展望や取組みたい・チャレンジしたいこと	<p>各自治会で抱えている問題に対して、本学の地域連携学生プロジェクト団体が協力できるなら、その団体と自治会を繋げる役目を担えるようにする。</p> <p>今年で浮かび上がった課題を改善しつつ、「くみやまスマイルフェスティバル」を継続して開催していくことで、もっと町民に KminK のことを知ってもらう機会を増やしていく。さらに「くみやまスマイルフェスティバル」にて、他の地域連携学生プロジェクトと企画したステージを考えていくことも目標にしていきたい。その中で、学生同士の繋がりや団体同士の横の繋がりの強化をしていきたい。</p> <p>そしてイベントなどで関わった自治会・個人との繋がりを維持し、委託販売を行っていくことで、久御山町のことを久御山町以外の地域で広めることができるようにしたい。</p> <p>若い人たちにも久御山町について知ってもらい、少しでも興味を持ってもらうきっかけにできるよう、私たちも多くの団体さんとの関わりを大切にしていきたい。</p>



アドバイザー 教員からの 評価 (コメント)	<p>(アドバイザー教員氏名) 黒宮 一太 先生 (アドバイザー教員所属) 京都文教大学 総合社会学部</p> <p>(※学生から提出された「事業完了報告書」に目を通していただき、評価をご記入ください。)</p> <p>地域連携学生プロジェクトとしては3年目となった今年度のKminKは、これまで取り組んできた行政等と連携した地域での各種活動に加え、NPO法人「のこのこ村」への定期訪問やともいきフェスティバルでの委託販売など、地域との連携をより深めていく新たな取り組みに果敢に挑戦した1年であった。KminKは、これまでの精力的な活動により久御山町での認知度も年々高くなり、久御山町役場の方からはいまや久御山町に欠かせない存在になっていると大きな期待を寄せられるプロジェクトになっている。こうした行政をはじめとする地域の人たちからの大きな期待にしっかりと応えていくべく、今年度は、2回生の代表や副代表を中心とする執行部を中心に活動を展開することができた点を高く評価している。とくに、年度当初は執行部でありながら先輩学生に頼らざるをえない部分もすくなくなかったように思われるが、活動を進めていくにしたがって、代表を中心とした「良いチーム」になっていき、強い責任感のもと、意欲的かつ誠実にプロジェクトを進めていったこともまた、アドバイザー教員として高く評価している。次年度への引き継ぎも含め、今年度の活動をしっかりとふりかえり、次年度はこれまで以上に久御山町役場としっかりと連携しながら、久御山町が全世代がいきいきと暮らせる町になるように、KminKにしかできない活動を進めていくことをおおいに期待している。</p>
地域 パートナー 連携先からの 評価 (コメント)	<p>(御名前) 蒲田 真希 様 (御所属) 久御山町役場 総務部 企画財政課</p> <p>(※学生から提出された「事業完了報告書」に目を通していただき、評価をご記入ください。)</p> <p>昨年度に引き続き、自治会等と積極的に関わり地域の活性化に寄与いただきました。</p> <p>また、自治会等との連携だけでなく、町役場や他団体が主催するイベントにも多く御協力いただいたうえ、2回目となるKminK主催のイベントを実施されるなど、KminKの存在が久御山町に定着しはじめる年になったと感じます。特に、今年度は、久御山町第6次総合計画策定に向けた「まちづくりプラン会議～久御山町の未来を考える町民Talk～」に参画いただき、町のこれからの10年を一緒に考えていただくことができました。</p> <p>学生のみなさんとの協働と連携による地域コミュニティの活性化は、本町のまちづくりの目標の1つでもある「地域力を生かした協働のまちづくり」を推進するうえで非常に重要な取組です。来年度以降も、積極的に活動を継続・拡大していただくことを期待しています。</p>



京都文教大学地域連携学生プロジェクト 2024  
事業実績書

プロジェクト名	商店街活性化隊しあわせ工房 CanVas
事業実施地域	宇治橋通り商店街周辺地域
連携先	地域パートナー：宇治橋通商店街振興組合 理事長 佐脇至様 主な連携団体等：宇治橋通商店街振興組合 宇治市役所（観光振興課） 宇治市観光協会
活動の種類	(該当するものを○で囲んでください。複数選択可) 1 環境保全活動      2 子育て支援活動      3 共助型福祉活動      4 地域の安心・安全 5 地域美化活動      6 地域産業おこし      ⑦ 地域商業の活性化      8 農村・都市交流活動 9 地域スポーツ振興      10 地域文化活動      ⑪ 地域行催事      12 その他 (      )
主な活動	( 7 ) 番      選択された番号のうち、もっとも重点においている活動を1つ選んでください。
プロジェクトの目的・目標 (目的を達成するための指標・数値等)	<p>※目的…申請書に書いた内容をまとめて記入ください。 ※目標…申請書に書いた具体的な数値等を記入ください。</p> <p>宇治橋通り商店街は国内外からの観光客や商店街が開催するイベントによって、賑わいのある商店街である。コロナ化を乗り越え、外国人観光客や国内観光客が年々増加しており、対面でのイベントの実施が見られるようになってきている。しかし、国内外の観光客だけが商店街に訪れているわけではない。地域住民の方々も商店街を生活拠点としている。商店街の目標は「しあわせ創造笑店街」を実現するという事で、それを支える CanVas としては、「地域住民が誇りに感じる商店街」にしていく。そのためには、学生が地域住民の方々に関わることや、学生目線での商店街の魅力発信を行っていくことで、商店街の活性化に貢献でき、商店街が掲げる「しあわせ創造笑店街」を実現することが出来ると考える。</p> <p>商店街を生活拠点としている方々が誇りに思える商店街づくりを目標とする。達成するためには、宇治橋通り商店街加盟店からの不満や困っていることを即座に解決できるように CanVas が商店街に訪れる回数を月に一度、個人としては、月に二度とする。そのようにすることで地域住民や店主様の声を活性化に反映できるようにする。</p> <p>また、CanVas 公式 Instagram の投稿頻度を月3回、今年から新しく開設する宇治橋通り商店街公式 Instagram の投稿頻度を月5回にする。宇治橋通り商店街公式 Instagram で投稿した内容を CanVas 公式 Instagram のほうでも発信することによって、商店街の魅力や地域住民の声などをたくさんの人に知ってもらうようにする。こうして商店街イベントの参加人数の増加やイベント満足度の増加につなげることで、商店街の活性化に貢献でき商店街が掲げる目標を実現できると考える。</p>
プロジェクトの目的・目標の達成具合 (具体的な数値を記載する)	<p>プロジェクトの目的・目標達成具合に関しては、メンバー各自が月2回（年間24回）商店街に行くという目標においては70%のメンバーが達成することができた。また、CanVas として商店街に訪れる回数である「月に1度」は、イベントに参画予定の前後にはイベント実行委員会の会議に参加したり、参加者に渡す景品の準備などで商店街の店主様と交流することができ、おおむね達成出来た。また年度の後半には、CanVas 主催イベントである「源氏物語ロゲイニング〜歩む君〜」で使用する冊子の内容修正や宇治市役所観光振興課の職員の方や宇治市観光協会の職員の方々を対象に宇治橋通り商店街や周辺地域には月に2～3度訪れることが出来た。CanVas 公式 Instagram の投稿頻度に関しては、ストーリーズは計26回、投稿数としては、計7投稿を行い、CanVas 公式 X では計31回、ポストは計12回であり、目標としていた月3回（年間35回）は達成することが出来た。SNS の運用は主に源氏物語ロゲイニングの広報活動のツールとして活用した。投稿内容に関しては開催期間や募集期間で、目に留まるような文言など工夫を凝らしながら運用を行った。また、クラフトビール夜市やわんさかフェスタに関しても、当日ブースを出展している場所や行っていることに関して情報発信を行ったところ、「CanVas のストーリーズで気になったから来たよ」という参加者の方がいたことから、商店街イベントの参加人数やイベント満足度の増加につなげ、商店街の活性化に貢献出来た。</p>

<p>上記の目標値がプロジェクトの目的にどのような影響を与えたと考ええるか</p>	<p>プロジェクトを遂行する上で、設定した「地域住民が誇りに思える商店街にする」という目標に関しては、「源氏物語ロゲイニング～歩む君へ」のまち歩きイベントを開催したことによって実現できたと考える。宇治市内だけでなく、滋賀県や兵庫県、香川県など京都府以外から宇治に訪れる観光客の方たちに、宇治の魅力だけでなく、源氏物語ゆかりの地であることも併せて魅力発信出来たと考えられるからである。また、商店街イベント参画に関しても、イベント実行委員会から参加することで商店街の方々イベントを作り上げることが出来た。さらにイベント参加者のみならず、イベントに出店している店主様や企業様の満足度をあげることに貢献することができた。今年度は目標値を達成したことで、ある程度目標に近づくことができたが、来年度以降更に達成するためには、商店街に訪れる目的をイベントのためなどではなく、「店主様との何気ない会話から商店街の隠れた魅力などを探す」という思いを持って活動を行っていく必要がある。</p>
<p>具体的な事業内容</p>	<p>(※事業の趣旨、実施日時、場所、参加者の状況、事業内容等)</p> <p><b>1. 5月12日(日) 新入生を対象にした新入生ロゲイニング 実施</b> ・1年生を対象に宇治橋通り商店街周辺地域で宇治のまちを歩き、新入生と交流しながら活動拠点について理解を深めた。</p> <p><b>2. 8月3日(土) クラフトビール夜市(宇治橋通商店街振興組合主催) ブース出展</b> ・クラフトビールを楽しむ大人だけでなく、子供たちも夏祭りの雰囲気を楽しめるよう企画し、体験型アクティビティを実施した。</p> <p><b>3. 8月21日(水) 源氏物語ロゲイニング～歩む君へ～ プレ実施</b> ・宇治市役所、宇治市観光協会、大学教職員を対象に9月から開催する源氏物語ロゲイニングのプレ実施を行い、最終調整を行った。</p> <p><b>4. 9月3,4日(水,木) 全国まちづくりカレッジ 2024 in 伊勢 参加</b> ・全国の地域課題解決に取り組む大学生と交流し、伊勢のさまざまな地域課題解決について取り組んだ。</p> <p><b>5. 9月27日(土) 源氏物語ロゲイニング～歩む君へ～ 第1回目実施</b> ・宇治橋通り商店街だけでなく、宇治市の魅力発信を目的に、まち歩きイベントを開催した。</p> <p><b>6. 10月19日(土) 源氏物語ロゲイニング～歩む君へ～ 第2回実施</b> ・宇治橋通り商店街だけでなく、宇治市の魅力発信を目的に、まち歩きイベントを開催した。</p> <p><b>7. 10月26日(土) わんさかフェスタ(宇治橋通り笑顔がいっぱいわんさかフェスティバル実行委員会主催) ブース出展</b> ・周遊型の CanVas オリジナルスタンプラリーを実施し、他の企業様や団体様が出店しているブースのお手伝いなども行った。</p> <p><b>8. 12月7日(土) 源氏物語ロゲイニング～歩む君へ～ 第3回目実施</b> ・宇治橋通り商店街だけでなく、宇治市の魅力発信を目的に、まち歩きイベントを開催した。</p> <p><b>9. 2月12日(水) 源氏物語ロゲイニング～歩む君へ～ 活動報告会</b> ・源氏物語ロゲイニングを実施するうえで、ご協力いただいた宇治市役所の職員の方々、宇治市観光協会の職員の方々に活動報告を行った。</p> <p><b>10. 2月 宇治橋通り商店街公式 Instagram 開設</b> ・宇治橋通り商店街のお店を紹介することを目的とした Instagram アカウントを作成し、商店街のおすすめ商品や店主様のエピソードなどを発信する。現在は店主様にインタビューは完了しているが、投稿は出来ていない。</p>

<p>今年度、新たに実施した取組や、見直しや改善をしたところ</p> <p>※どんな目的で行ったか、その結果どんな成果があったか、具体的に記してください。</p>	<p>○源氏物語ロゲイニング ～歩む君へ～</p> <p>2024 年 1 月～ 12 月 15 日まで NHK で放送されていた大河ドラマ「光る君へ」の舞台の一部が宇治市であることから、国内外からの観光客がさらに増加することが予想されていた。大河ドラマを見て宇治に訪れた観光客や宇治には何度か訪れているが、源氏物語に興味を持った観光客など幅広いターゲット層を対象にまち歩きイベントを 9 月 28 日（土）、10 月 19 日（土）、12 月 7 日（土）の 3 回実施した。イベント総参加人数は 34 名であった。宇治市役所や宇治市観光協会の方たちを対象にプレ実施を行ったり、CanVas 内でどうすればより良いものになるのかを考えながら、試行錯誤を行った。その結果、ミッションの「参加者の好きな場所で和歌を詠んでみる」や「浮舟があったとされる場所を想像して写真を撮ってみよう」など単にまちを歩くだけでなく、参加者自身が昔の宇治と現代の宇治を比べながらまちを歩ける要素を盛り込んだ。実際に参加者にアンケートを取ったところ、試行錯誤したミッションの内容に関して好評をいただいた。また参加者には宇治市主催の「大河ドラマ展」、「お茶と宇治のまち歴史公園茶づな有料ゾーン」、「源氏物語ミュージアム」の入場券がセットになった三館セット券を購入していただいたことによって、集客に伸び悩んでいた「大河ドラマ展」の入場者数が増加し貢献することが出来た。</p> <p>また、2 月 12 日（水）に宇治市役所、宇治市観光協会の職員の方々に源氏物語ロゲイニングの活動報告を行った。そこでは、CanVas 公式 SNS でイベントの広報を行うのは限界があり、集客力を上げるためにはどうすれば良いのかや、大河ドラマ放送期間内に開催したことである程度の参加者を集めることが出来たが、放送終了した今後は開催していく必要があるのかなど、今後の課題について話し合いを行った。集客力を上げるためには、宇治十帖スタンプラリー（宇治市、宇治市教育委員会、紫式部文学賞イベント実行委員会、（公社）宇治市観光協会主催）とのコラボに取り組んでみるのも良いのではないかとお申し出いただいた。具体的には CanVas オリジナルの学生が付き添いながら歩く点に注目して、宇治十帖スタンプラリーでは CanVas がポイントで解説を行うなどで関わることである。今後も開催していく必要があるのかについてであるが、宇治市としては「紫式部ゆかりもまち宇治魅力発信プロジェクト」は継続して行うとのことであったため、源氏物語ロゲイニングも継続して行っても良いのではとお申し出いただいた。ただ、現状では宇治橋通り商店街との関連性があまりなかったため、ミッションに「商店街のお店で商品名に源氏物語に関連する商品を 1 つ買ってみよう」などといった、商店街のお店とイベント参加者が関われる内容を盛り込んでいく必要があり、改善が必須であると考えた。最近では商店街に訪れるが外国人観光客が増回してきたことから、英語や中国語など多言語対応の冊子などを制作し、片言でもいいので対象を変えて実施してみるのも良いのではと考えた。</p>
<p>事業の成果</p>	<p>（※地域や住民にもたらされた効果（※数値目標があれば記入してください。））</p> <p>1. 宇治橋通り商店街「わんさかフェスタ」 ブース出展について</p> <p>CanVas オリジナルスタンプラリーには 268 人の方に参加していただくことができ、ブース出展している企業様や店主様の出し物を体験していただくことに貢献することができた。また、今年度は京都信用金庫様と連携し、お金に関するクイズの出題も行い、店主様だけでなく企業様との交流を持つことが出来た。また、CanVas としても実行委員会の打ち合わせに参加することで、イベント以外でも店主様と交流を持つことができた。商店街の店主様と学生が関わりながらイベントを盛り上げることは他の商店街の取り組みを見ても数少なく、「CanVas がいるこの商店街で良かった」とわんさかフェスティバルに出展されている方からお声をいただけるように貢献した。</p>

事業の成果	<p>2. 源氏物語ロゲイニング ～歩む君へ～について</p> <p>CanVAS 主催イベントである源氏物語ロゲイニング～歩む君へ～を3回実施したことによって同時期に開催していた宇治市主催の「大河ドラマ展」の入場者数に関しても、C入場者数を最終的に11万に伸ばすことに少しは貢献することが出来た。源氏物語ミュージアムの入場者数の増加にも同じく貢献することが出来た。また、ロゲイニングイベントの広報の方法の一つが宇治市の小学校にチラシ配架したことによって、宇治市在住の親子で参加される方が多くなり、宇治に住んでいながらも宇治のまだ知らない魅力を発信することが出来た。さらには、滋賀県や兵庫県、香川県など京都府だけでなく近畿圏周辺の都道府県の方々に参加していただくことが出来た。上位3チームには商店街で使用できる商品券を景品としたことで、商店街に訪れる機会を創出し、リピートしていただくことで店主様にとっても「誇りに思える商店街」になることに貢献した。</p>
次年度への課題	<p>以前までは国内からの観光客を対象に商店街でイベントを実施したり、ブースの出店などに取り組んでいたが、コロナの規制が解除されてからは、アジア圏の外国人観光客が宇治橋通り商店街に多く訪れるようになった。そのため CanVAS が考えられる来年度以降への課題としては、国内の観光客にイベントに参加していただき、満足していただくことはもちろんではあるが、外国人観光客でもイベントに満足してもらえるように使用言語を日本語だけでなく、英語や中国語など多言語に対応したものを制作していく必要があると考えられる。また、宇治橋通り商店街以外でも商店街の魅力を発信していく必要があると考える。また、来年度以降も継続して商店街の不満点や困っていることを即座に解決できるように商店街に訪れ、CanVAS と宇治橋通り商店街が密接な関係性を築きあげていくことも必要であると考えられる。</p>
今後の展望や取り組みたい・チャレンジしたいこと	<p>宇治橋通り商店街に訪れる観光客がアジア圏や欧米などの外国人観光客が増加してきているため、日本人観光客だけでなく外国人観光客でも楽しめるイベントに取り組む必要があると考える。そのためには、多言語対応の資料の製作が必要であるため取り組みたい。また、宇治橋通り商店街以外でも商店街の魅力発信が必要であると考えられるため、商店街のお店の商品を学生が集め、各地のイベントでセレクトショップとして出店し、商店街の魅力を発信していきたい。</p>
アドバイザー教員からの評価 (コメント)	<p>(アドバイザー教員氏名) 片山 明久 (アドバイザー教員所属) 京都文教大学総合社会学部 教授</p> <p>(※学生から提出された「事業完了報告書」に目を通していただき、評価をご記入ください。)</p> <p>本年度は、活動面では例年のルーティン的なイベントの実施に加え、「源氏物語ロゲイニング」をプレ1回+本番3回実施した。「源氏物語ロゲイニング」は前年の計画段階から2年がかりで計画・実施したもので、粘り強く新しい企画を実現できたことは高く評価できる。宇治の観光に新しいコンテンツを付与できたものとして、その意義も大きいと思う。一方運営面では、昨年の反省に基づき1回生の勧誘を熱心に行って一定数のメンバーを確保できたことは評価できる。ただメンバー間の活動に対する意識に差があり、1部のメンバーに仕事が偏った事や、班を超えて CanVAS 全体の活動の方向性の検討や、催事の際の助け合いがあまり行われなかった事は今後の反省点と感じる。今後はこれらが改善され、よりメンバーの一体感が高まることを期待する。</p>
地域パートナー連携先からの評価 (コメント)	<p>(御名前) 佐脇 至 (御所属) 宇治橋通商店街振興組合 理事長</p> <p>(※学生から提出された「事業完了報告書」に目を通していただき、評価をご記入ください。)</p> <p>企画されたそれぞれの事業を学生視点で考え、工夫して実施されたと思います。</p> <p>夏、秋のイベントでは随所に CanVAS 存在感を感じました。また、源氏物語ロゲイニングの実施にあたり、従来のロゲイニングとは違い『源氏物語』を十分理解した上で企画を立てて開催されたことは大いに評価できると思いました。そして『紫式部と源氏物語ゆかりのまち宇治』のまちづくりの一助になったことと考えます。</p> <p>今年度の CanVAS の活動も宇治橋通り商店街を元気にしていただき、商店街活性化隊 canvas としての目的を達成されたと思います。</p>



**京都文教大学地域連携学生プロジェクト 2024  
事業実績書**

プロジェクト名	lemon tree
事業実施地域	宇治市内
連携先	地域パートナー： 主な連携団体等:宇治市長寿生きがい課、れもねいど事務局（宇治市福祉サービス公社）、カフェほうおう（京都認知症総合センター）、京都府立洛南病院
活動の種類	(該当するものを○で囲んでください。複数選択可) 1 環境保全活動      2 子育て支援活動      ③ 共助型福祉活動      ④ 地域の安心・安全 5 地域美化活動      6 地域産業おこし      7 地域商業の活性化      8 農村・都市交流活動 9 地域スポーツ振興      10 地域文化活動      11 地域行催事      12 その他（      ）
主な活動	(      3      ) 番      選択された番号のうち、もっとも重点においている活動を1つ選んでください。
プロジェクトの目的・目標 (目的を達成するための指標・数値等)	目的：①認知症当事者との世代を超えた交流を促進すること②認知症の理解・れもねいど活動の輪を広げることである。若者世代と呼ばれる学生が主体となって、地域イベントに認知症当事者の方々と参加する。その際に学生のみならず来場者とも交流することにより、認知症を自分ごととして触れ合う機会を設け、認知症に対する意識のズレを改善する改革を行う。 目標：①の目的達成に向けて、継続事業を含め参加イベントを昨年度の倍である4回に増やすことである。これらのイベントには認知症当事者にも参加協力を依頼した。 ②の目的達成に向けて、新たに Instagram 運用を開始し、そのフォロワー数を300人に増やすことである。また、認知症の知識や活動に関するチラシも参加イベントの際に配布する。
プロジェクトの目的・目標の達成具合 (具体的な数値を記載する)	①に関しては、本年度の活動として、目標通りの5月の萬福寺エンジョイフェスタ・10月のわんさかフェスタ・11月のともいきフェスティバルにブースを展開し、3月末のわいわいフェスタの参加も控えているため、目標通りの合計4回の参加となる。これらの地域イベントに参加し、認知症当事者と学生ならびに来場者との交流を行った。また、ブース来場者には認知症に関するチラシと本団体、連携機関を載せたチラシの配布も行った。 ②に関しては、本資料作成時はフォロワーが79人であったため、目標値には到達しなかった。だが、イベントには約300人もの来場者に来てもらい、表面に認知症に関する知識と活動紹介、裏面にはれもねいど事業のマスコットキャラクターの塗り絵を載せることによって、親子で見ることができるよう工夫した。
上記の目標値がプロジェクトの目的にどのような影響を与えたと考ええるか	①について、目標にしていた4回のイベントに参加し、ブースを展開することができた。その中で認知症当事者の方との触れ合いや、認知症に関するチラシをブース来場者全員に配布したことによって目的に近づけていると考えられる。 ②について、Instagramのフォロワー数は目標に達しなかったが、3回のイベントを通してブースには約300人が来場した。現状、Instagramでは日々の活動紹介や参加イベントの投稿しかしていないため、Instagramのフォロワー数が目標に到達していないことよりも、来場者の人数の方が目的の達成には大きく影響を与えている。理由として、来場者には全員にチラシを配布することで、認知症の啓発を促していたからである。 以上のことから、多世代に向けた認知症の理解を促進することに繋がり、宇治市の認知症アクションアライアンスに参画し認知症にやさしいまち宇治の実現に寄与できていると考える。

<p>具体的な事業内容</p>	<p>(※事業の趣旨、実施日時、場所、参加者の状況、事業内容等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症アクションアライアンスの一環である、れもねいどグループミーティング全6回に参加し、学生として「認知症にやさしいまち宇治」について意見交換を行うとともに、認知症当事者の方との定期的な交流を以て信頼関係の構築に努めた。</li> <li>・合計4回の地域イベントにブースを出店して認知症当事者の方とともに参加し、学生との交流だけでなくさらに多世代の方の来場者との関わりの機会を作ることにより、認知症の啓発活動に努めた。</li> <li>・京都文教大学内においてテニスを認知症当事者とともにする交流会を計画し、8月と2月に行った。このテニスの要望は、れもねいどグループミーティングにて認知症当事者の方のニーズを聞き、学生がその実現に尽力した。</li> <li>・三重県で行われた全国まちづくりカレッジに参加し他大学の多様な学生主体で動いている活動団体との交流を経たことで、今後の活動に向けてのモチベーション向上に繋がった。</li> <li>・Instagramを運用し、イベントへの来場者だけでなく連携機関とさらに多くの人に知ってもらえるように投稿した。日々の活動を発信するのはもちろんのこと、チラシなどに掲載することで手軽に本活動団体を知ってもらえることも狙いとしている。多世代に認知症という知識を浸透させるためにはどのようにすれば良いのか考え、SNSで活動を発信することが最も効果的ではないかという結論に至った。</li> <li>もちろん、イベントに参加時は紙媒体で認知症に関する情報を書いたり、SNSや「れもねいど」のホームページのQRコードを掲載して啓発と活動の周知に努めた。</li> <li>・3/20に開催される認知症フォーラムに登壇し、1年通しての活動について話す。また、認知症当事者の方から lemon tree の活動に関わったことや登壇の内容を聴いてのコメントをもらってのやりとりも行う。このやりとりによって、学生目線だけでなく実際に関わったことで感じることを話してもらい、世代を超えた交流に対する意義について示すことができると考えている。</li> </ul>
<p>今年度、新たに実施した取組や、見直しや改善をしたところ</p> <p>※どんな目的で行ったか、その結果どんな成果があったか、具体的に記してください。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①地域イベントに積極的に参加し、れもねいどグループミーティングで関わりのある認知症当事者の方もお招きして、来場者との積極的な交流とチラシによる啓発活動を行った。同時に、公式 Instagram を開設し、日頃の情報発信からイベントなどの活動を発信した。このような学内にとどまらず地域に出て交流することと日々の活動を発信することを新たな取り組みとして行ってきた。これらの活動は、認知症や高齢者との関わりが遠いと感じている若者世代や子育て世代に対して当事者意識を持ってもらえるのではないかと仮説のもと実施した。</li> <li>②公式 Instagram の開設と同時に公式の G メールアカウントも作成した。認知症当事者の方を地域イベントに招待したり、関係機関との連絡を行いイベント時の連携を昨年度よりも強化した。</li> <li>③認知症当事者の方の声を的確にキャッチして、学生の中でどの程度実現可能かを検討し実現に向けて努めた。</li> </ol> <p>初回は、認知症当事者の方のテニスをしたいという声から、京都文教大学内にあるテニスコートを活用し、認知症当事者の方と関係機関と学生のテニス会を実施した。また昨年度から継続して、京都文教大学内にて行われる「ともいきフェスタ」にて木工教室と同時並行で、認知症当事者の身体を動かしたいという声から「ボッチャ」のゲームブースを設置し、来場者とスタッフや認知症当事者との交流を図った。</p>



事業の成果	<p>(※地域や住民にもたらされた効果 (※数値目標があれば記入してください。))</p> <p>①地域イベントに参加した際に、認知症に関する知識と本団体と関係団体の活動について記載し、開設した Instagram の QR コードも載せたチラシを作成し来場者配布した。Instagram を活用することによって、同様の活動をしている組織に本団体の活動を知ってもらえたということによる本団体のモチベーションの向上と同時に、来場者においては認知症について関心を持つ一歩として機能していると考えられる。</p> <p>②連絡手段を設けることで、関係機関が主催のイベントに招待してもらえたり、テニスなどの自主開催イベントへ認知症当事者の方の招待するために大きく役立った。</p> <p>③認知症当事者の方の声を反映することにより、身体を動かしながら学生との交流ができたことによってグループミーティングやブース出展時とは違った、非常にラフでフラットなコミュニケーションをとることができた。そのため、今後の活動に向けての信頼関係につながったのではないかと考えている。</p> <p>総合して、認知症の理解や知識を広めることと同時に、昨年度から継続して認知症当事者の方や連携機関様との関係を持つことができた。昨年度と異なり今年度は、認知症当事者の方のニーズを聞き出し学生としてどのように関わることができるか考え実践することで、より密度の濃い関係性が構築できたのではないかと考える。</p>
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担が的確にできずメンバーのモチベーション低下が伺えた。そのため、今年度は役割分担を幹部で確実にを行い、メンバーも巻き込んで帰属意識の向上を狙う。</li> <li>・今年度始めた Instagram の運用が思う通りにいかなかった。そのため、先述したように幹部で SNS 担当を設けて、他のメンバーを巻き込みブース展開とともに SNS 運用にも尽力できる環境を整える。</li> <li>・毎出展時に認知症当事者の方に来ていただいていたが、ブースの内容は学生が完全に考えたものを手伝っていただく形になっていた。</li> </ul>
今後の展望や取り組みたい・チャレンジしたいこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域イベントにブースを出展する内容について、学生だけでなく認知症当事者の方の意見も取り入れて、共にブースを楽しめるような場にしたい。</li> <li>・れもねいど事業に関わりのない認知症当事者の方にも、テニス会や地域イベントに参加もしくは来場だけでもしてもらえるように活動の周知に努めたい。</li> </ul>
アドバイザー教員からの評価 (コメント)	<p>(アドバイザー教員氏名) 平尾 和之 (アドバイザー教員所属) 京都文教大学臨床心理学部 教授</p> <p>(※学生から提出された「事業完了報告書」に目を通していただき、評価をご記入ください。)</p> <p>昨年度、学生の主体的な志から誕生した lemon tree は継承が課題でしたが、今年度、引き継いでくれた、代表の辻翔太くんと副代表の小泉瑳介くんを中心に、1 年次から 4 年次までメンバーも増え、飛躍しました。現代高齢化社会における重要な地域課題である「認知症とともに生きるまちづくり」においては、世代を超えた交流、世代継承性が不可欠です。lemon tree のメンバーは、そのフレッシュな発想と活動力で、れもねいどの輪に若い力をインプットしてくれました。自らのアイデアによる企画を地域のフェスティバルで開催し、認知症当事者のみなさんとともに、子どもたちやその親と交流しながら、認知症やその活動について伝えてくれました。またグループミーティングで認知症当事者のみなさんの声を聞き、その希望を迅速に実現した大学でのテニス交流会は、特筆すべき活動力でした。認知症当事者や医療・福祉・行政・企業・市民からなる、れもねいどのみなさんとの信頼関係も築かれ、大きな期待が寄せられ、希望となっています。年度末には宇治市のフォーラムで lemon tree が登壇し、今年度の活動成果を発表します。認知症当事者のみなさんとの企画段階からのコラボや若い世代ならではの SNS でのさらなる発信等、次年度に向けてのさらなるチャレンジも楽しみです。lemon tree の活動により、若い世代にれもねいどの輪がさらに広がっていくことを期待しています。</p>

<p>地域 パートナー 連携先からの 評価 (コメント)</p>	<p>(御名前) 田中 まり (御所属) 京都認知症総合センター</p> <p>(※学生から提出された「事業完了報告書」に目を通していただき、評価をご記入ください。)</p> <p>プロジェクトの目的・目標の「認知症に対する意識のズレ」に着目されていることに対し、高く評価いたします。その中で、認知症当事者やご家族、地域の方々の声を聴き作り上げてこられたイベントは、全ての参加者にとって「認知症の意識のズレ」の修正に繋がるのではないのでしょうか。</p> <p>また、当センターの「作業工房ほうおう」で当事者と一緒に作業をしたり、こども食堂やボッチャのイベントにスタッフとして参画されたことも評価でき、当事者や認知症を知ることだけでなく、専門職との繋がりを持つことも目的・目標達成の一助になれば嬉しく思います。</p> <p>最後に、Instagram の運用は、一定の効果は見込めるとは思います、IT リテラシーの問題も含めて考えながら発信していただきたいと考えます。</p>
--	---